



高輪だより

令和元年度 3月号
港区立高輪幼稚園
園長 柿沼 敦子

発表会を終えて

高輪幼稚園長 柿沼 敦子

2月上旬、高輪幼稚園子ども会では、劇遊びや劇の表現活動の発表がありました。おうちの方々が見に来てくださった日が、各学級とも一番の出来映えとなりました。

年少組は、おうちの方々が見に来てくれたことがとてもうれしくて、張り切って先生と一緒に普段、学級で楽しんでいる姿を見せてくれました。それぞれの表現で演じたり、元気いっぱいダンスを踊ったりしました。終わって拍手が始まると、うさぎ組さんは、初めての感覚にきょんとした表情を見せ、鳴り止まないなが〜い拍手にはわっと何だかくすぐったい柔らかい表情に変わり、会場中が温かい雰囲気になりました。幸せな時間でした。

年中組は、自分の役をしっかりと意識し、効果音や曲を聞き分けて友達と一緒に動いたりセリフを言ったりする様子に大きな成長を感じました。大好きな絵本を題材としていることや、遊びの中で色々な役になって何度も何度も表現することを楽しんだことが、発表への意欲となりました。担任と一緒に衣装や道具作りを行い、劇が自分たちのものとなっていきました。当日は緊張気味でしたが、おうちの方々の心から楽しむ笑顔のおかげで楽しんで演じることができました。

年長組は、担任が手の平を開くと即興素話が始まる“お手々絵本”を聴いたり、絵本の登場人物の気持ちになって「怒り」や「喜び」などの様々な感情や動きを表現したりする活動を重ねてきました。年長の劇は、幼稚園生活の3年間の学びの集大成です。表現、製作活動などの積み重ねを活用し、良さを分かっている仲間と対話的に作りあげた作品です。自分たちでつくる劇だからこそ主体的な取組となりました。仲間と目と目で合図したり、阿吽の呼吸で演じたりする姿にも大きな育ちを感じました。とてもうれしい就学前の年長の姿でした。この「主体的・対話的で深い学び」は、今回の幼稚園教育要領および学習指導要領改訂において幼稚園から高校までの学びのキーワードとなっています。どんな未来になろうとも自分で考えて能動的に生き抜く力をつけていくための大切な学びです。

各学年とも日々の積み重ねが子どもたちの大きな成長につながっています。その成果を感じた子ども会でした。自信に満ちた子どもたちの誇らしげな表情、4月に進級、進学する子どもたちに大きくエールを送ります。令和元年度も高輪幼稚園の教育にご支援、ご協力を頂きました地域の皆様、保護者の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



年長すみれ組
創作劇「ダブルたろう」



年中もも組
劇「ねこのおいしゃさん」



年中うめ組
劇「おかみとこやぎたち」



年少うさぎ組
劇あそび「てぶくろ」